

草津白根山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

【白根山（湯釜付近）】

本日（26日）実施した上空からの観測では、前回の観測（2018年2月）と比べ、湯釜周辺の噴気の分布や地熱域の分布に特段の変化はありませんでした。

[防災上の警戒事項]

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

【本白根山】

本日（26日）実施した上空からの観測では、本白根山の火口付近の状況に特段の変化はなく、噴気は認められませんでした。

[防災上の警戒事項]

本白根山の火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

活動概況

【白根山（湯釜付近）】

本日（26日）実施した上空からの観測によると、湯釜周辺の噴気量は少ない状態でした。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、湯釜火口内、および湯釜北側の地熱域に特段の変化は認められませんでした（図1～3）。

白根山（湯釜付近）では、21日19時頃より湯釜付近を震源とする火山性地震が増加しました。23日以降減少したものの、引き続き、やや多い状態が続いています（図5）。低周波地震は24日以降観測されていません。

21日から湯釜火口付近の傾斜計²⁾で観測されていた変化は、23日以降小さくなったものの継続しています（図6）。

【本白根山】

本日（26日）実施した上空からの観測では、鏡池北火口北側の火口列と西側の火口及び鏡池火口底の火口列周辺で顕著な地熱域は認められませんでした。また、観測中、各火口で噴気は確認されず、火口の形状に特段の変化はありませんでした（図4）。

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置とは、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1マイクロラジアンは1km先が1mm上下するような変化量です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧できます。

この資料は気象庁のほか、東京工業大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号 平 29 情使、第 798 号)。

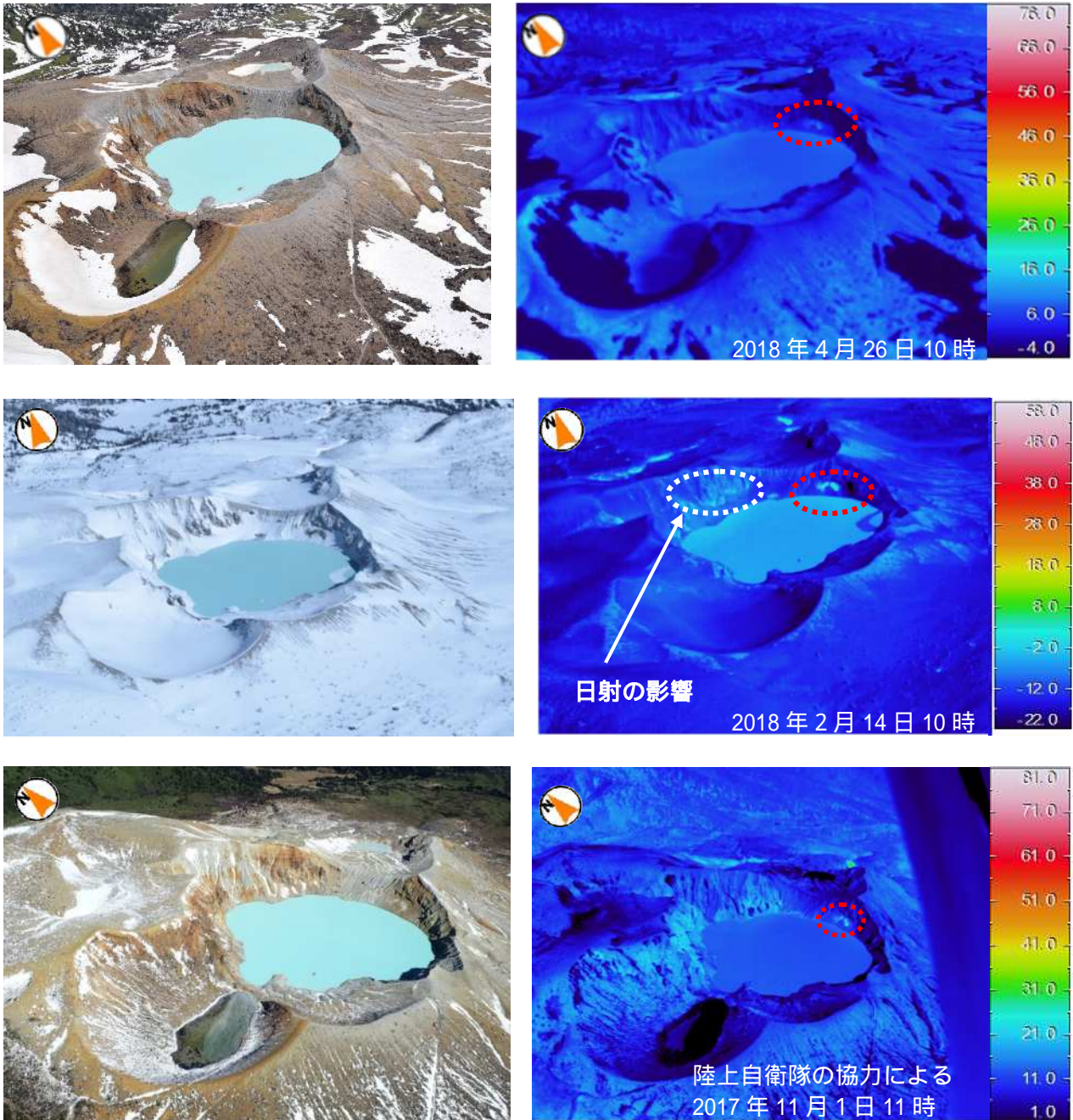


図 1 草津白根山（湯釜付近） 湯釜周辺の状況及び地表面温度分布

26 日に実施した上空からの観測では、湯釜火口内の北側壁面に引き続き地熱域が確認されました。地熱域の分布は、前回の観測（2018 年 2 月 14 日）と比較して大きな変化はありませんでした（赤破線）。

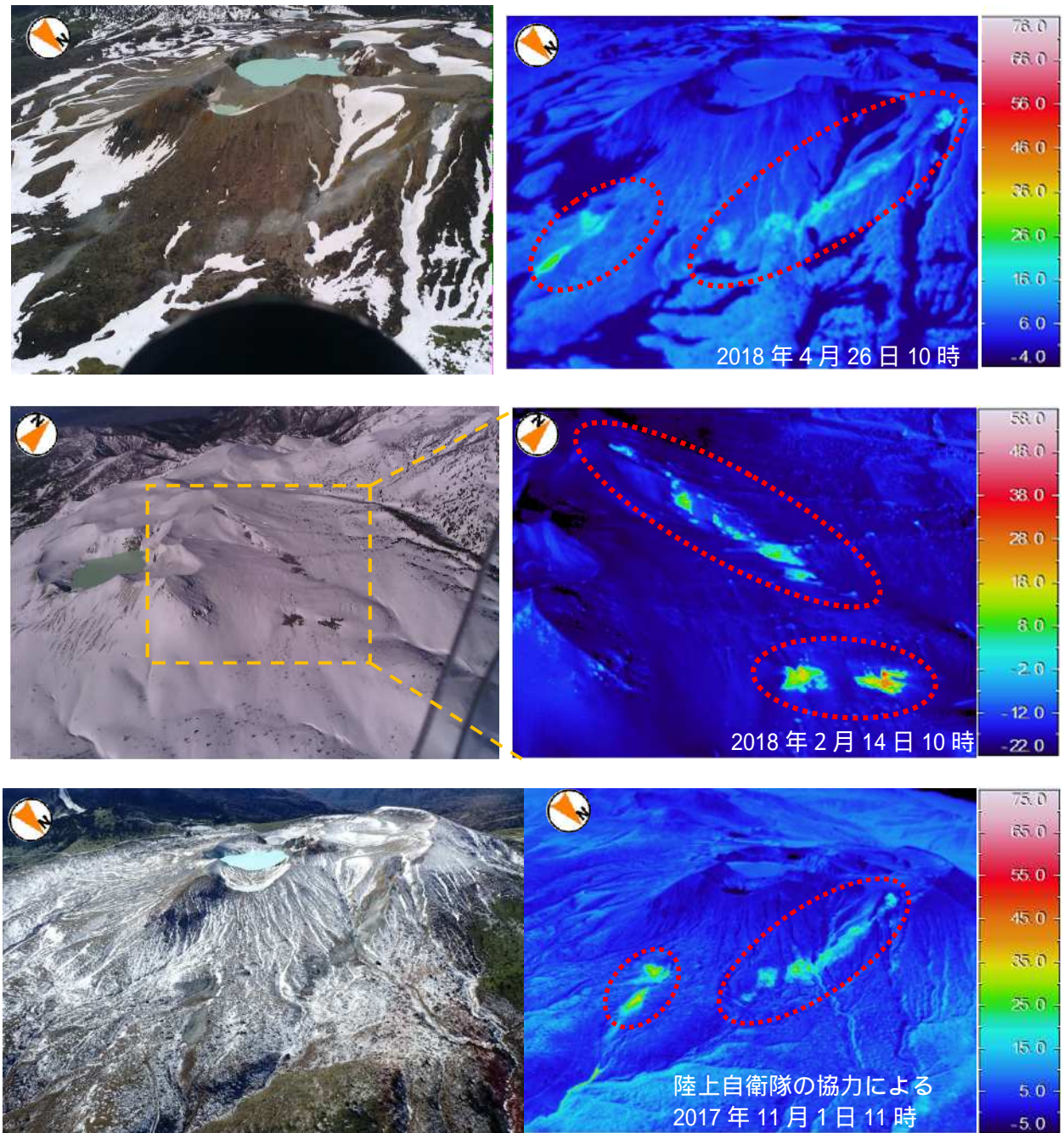


図2 草津白根山（湯釜付近） 水釜火口北側及び北東側斜面の状況及び地表面温度分布
26日に実施した上空からの観測では、前回の観測（2018年2月14日）と比較して、水釜火口北側及び北東側斜面の地熱域の分布に特段の変化はみられませんでした。



図 3 草津白根山（湯釜付近） 水釜の湖水の様子

26 日に実施した上空からの観測では、水釜火口の湖水の色が、前回の観測に比べて、やや濃くなっていました。

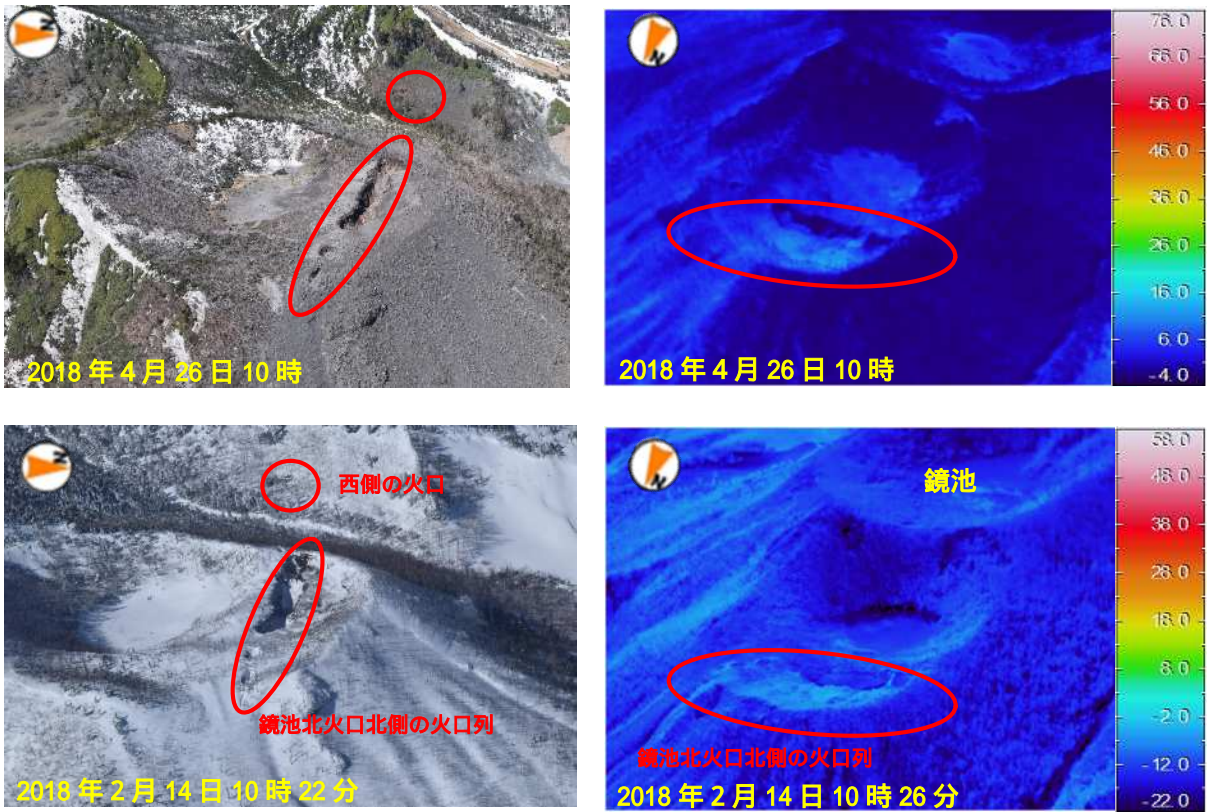


図4 草津白根山（本白根山） 鏡池北火口北側の火口列と西側の火口の状況
火口周辺に顕著な地熱域は認められず、上空からの観測中、噴気は確認されませんでした。

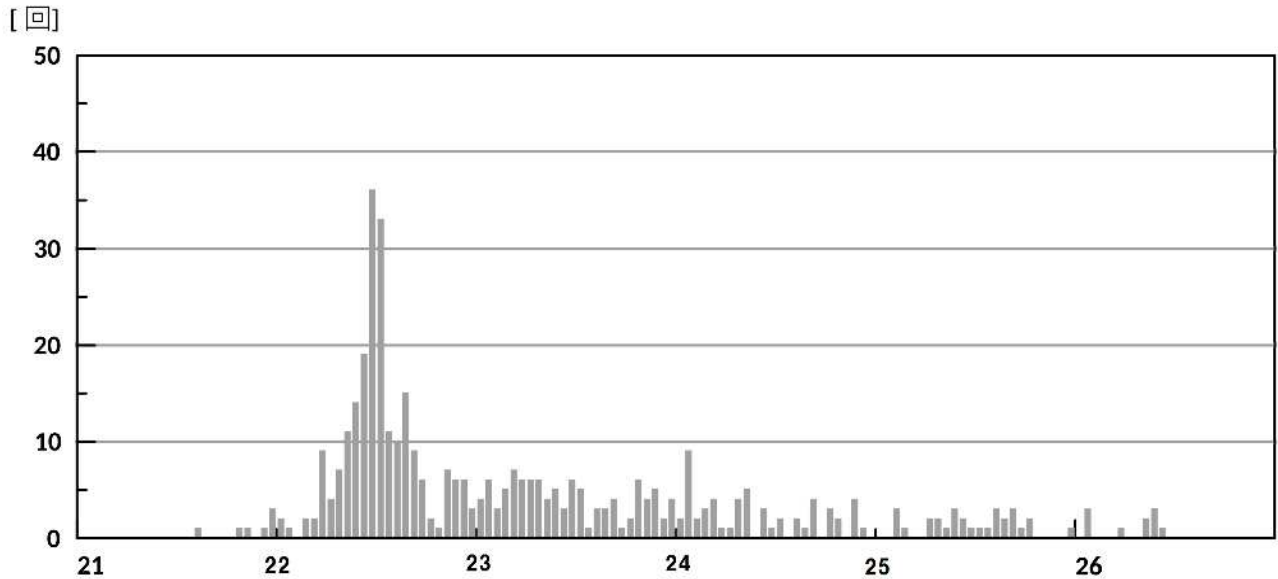


図5 草津白根山 火山性地震の時間別発生状況(速報値)(2018年4月21日00時~26日12時)
白根山(湯釜付近)の火山性地震は、23日以降減少したものの、引き続き、やや多い状態が続いています。低周波地震は24日以降観測されていません。

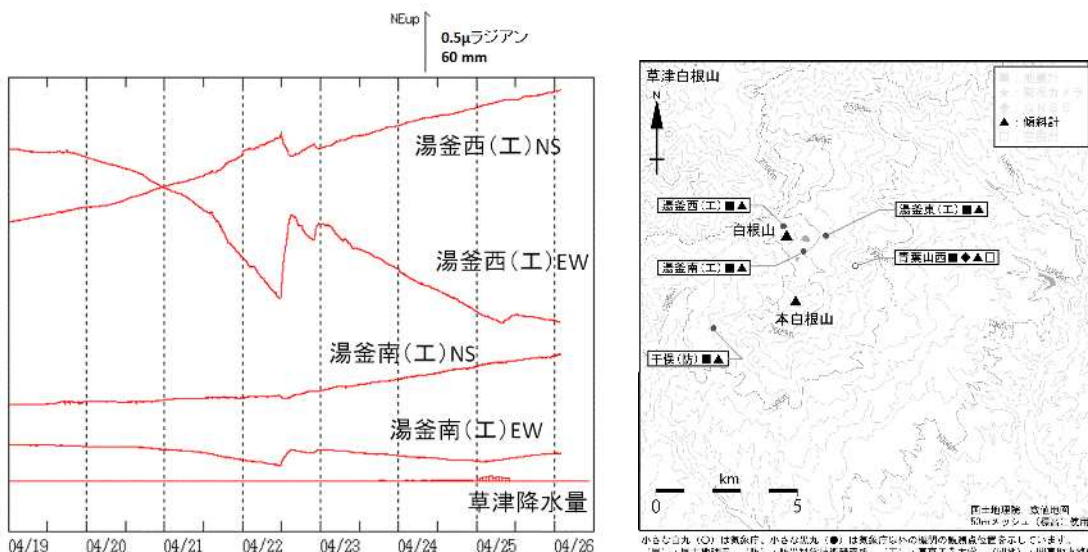
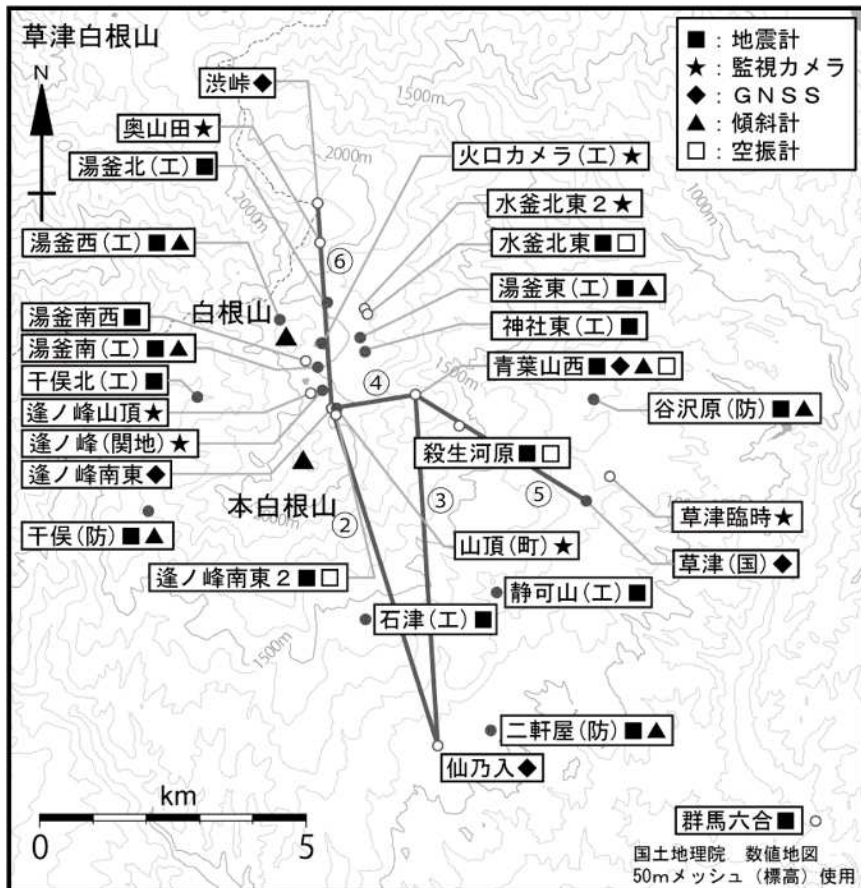


図6 草津白根山(白根山(湯釜付近)) 傾斜計の状況(2018年4月19日~4月26日12時)
(工):東京工業大学
湯釜火口付近の傾斜計で観測されていた変化は、23日以降小さくなったものの継続しています。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(工): 東京工業大学、(関地): 関東地方整備局

図7 草津白根山 観測点配置図